

# いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成22年度いのちの教育総合支援事業

## 「いのちの大切さ」(学級活動)

入善町立飯野小学校 5 学年児童  
平成22年7月9日実施

## 【いのちの先生】

水島 香苗先生

・あわの産婦人科助産師・婦長

### 【授業の概要】

- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 いのちの先生の話
  - (1) 受精から現在までの成長
  - (2) 何世代も続いているいのち
  - (3) 親の愛情といのちの大切さ
- 3 乳児とのふれ合い
- 4 親からの手紙を読む
- 5 今日の授業の感想を書く



### いのちの授業を受けて (児童の感想)

いのちがどんなに大切なのかを知りました。私たちは、最初どんなに小さかったか、そして、私たちが生まれるまでにどんな苦勞があったのかを知りました。陣痛などいろいろな苦勞があった中で、親は「早く会いたいな」という気持ちだったこと、また、親がお腹に話しかけると、お腹の中で子どもも手や足を動かして応えていることも知りました。

お母さんからの手紙を読んで、生まれた時の苦勞や喜びがたくさん書いてあって、お母さんは私のことをすごく大切に思ってくれていることが分かってうれしく思いました。私はお母さんの子に生まれてきてよかったなあと思いました。これからも、自分のいのちを大切にしていきたいです。

### いのちの授業を受けて (児童の感想)

私は、赤ちゃんは最初どんな大きさだったのか知りませんでしたが、今日の授業で初めて分かりました。最初のころの小さな卵からどんどん成長して大きくなり、赤ちゃんが生まれてくることを知りました。その後、スクリーンで赤ちゃんや出産の写真を見て、赤ちゃんはすごくがんばっているように思いました。

赤ちゃんを抱っこした時、すごくあたたかくて軽くて、すごくかわいかったです。そして、最後に家族からの手紙を読んだ時、私は30時間もかかって生まれてきたことを知り、びっくりしました。また、いい名前をつけてもらったのでとてもうれしいです。私は手紙を読んで感動し、涙が出てしまいました。これからも、お父さんやお母さんを大切にしようと思います。